

おもな内容

- ・群馬県小学校長会304名の「一体感」を
- ・第1回理事・評議員会報告
- ・第71回研究大会並びに総会
- ・専門部だより
- ・第2回理事研修会報告
- ・郡市校長会の動向
- ・新会員ひとこと抱負

群馬県小学校長会

会報

平成29年6月28日 第201号
発行 群馬県小学校長会
会長 伊勢川 聰
〒371 前橋市文京町2-20-22
-0801 群馬県小・中学校校長会事務局
TEL 027-223-7158
編集 群馬県小学校長会
広 報 部
印刷 有限会社 アート印刷

群馬県小学校長会304名の「一体感」を

群馬県小学校長会会長 伊勢川 聰



今年度、5月17日の研究大会並びに総会は、70周年記念式典と兼ねて開催されました。当日は、多くのご来賓、歴代会長の皆様方にご参加いただき盛大に挙行することができました。また、それに合わせ記念誌、

『十年のあゆみ』を発行することができました。

前回の記念誌発行から十年となるこの記録集は、内容的に、ささやかではありますが、この記録の蓄積が、次の十年への歴史のスタートともなり、今年度がその意味でも大切な一年であることを実感させるものとなりました。各都市理事や専門部の方々をはじめ、県内の全校長先生方には、大変お世話になりますが一年間よろしくお願い申し上げます。

当日、式典に引き続き行われた記念講演では、「新学習指導要領について」の演題で、文部科学省大臣官房教育改革調整官の平野 誠様より、ご講演いただき、我々校長にとって、実にタイムリーな内容でした。

この記念式典を兼ねた総会を通して、県内304名の会員(校長)の団結力の大切さ(一体感)について、再認識しました。

時代はまさに変革の時、日頃、教育の不易と流行について、ともに大切にしなければならないと思っています。不易(変わらないもの)とは何か、流行(変わるもの)は何か、常に熟慮し、議論できる校長で

ありたいと願っています。次期(新)学習指導要領の完全実施に向け、英語の教科化や「特別な教科 道徳」の準備がすでに各学校で始まっています。

社会に開かれた教育課程や「主体的・対話的で深い学び」とは何か、校長会の各種研修の機会に協議を重ね、課題を一つずつ明らかにし、群馬県教育委員会や関係諸団体の皆様とともに、一步一步前進していきたいと考えています。新学習指導要領への対応は、まさにその中心テーマとなるものであると思います。

さらに、今年度は、教員の「多忙化の解消」が大きな課題であります。これについても、群馬県教育委員会と校長会が一体となり、課題の解決に向け、努力していく所存です。パソコンやインターネットの普及は、事務の効率化等で大きな成果をあげてきました。教員が子どもと向きあえる時間の確保が叫ばれて久しいわけですが、まだまだ多忙化の解消にはほど遠いのが現実です。

『チーム学校』を機能させ、学校内外で係わる教職員やさまざまな職員が知恵を出し、互いに連携して業務の軽重を見極め、取捨選択(スクラップ・アンド・ビルド)していく覚悟も必要ではないかと考えます。

終わりに、本会会員一人一人が、自ら主体的に現実を把握し、会員間で対話し、深い学び(熟議)を重ねていきたいと願っています。群馬県の子どもの明日の教育のため、全力で努力する研究団体であり続けることをお願いし、ご挨拶といたします。